

2020年1月6日

2020年社長（廣瀬隆史）年頭挨拶について

各位

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本日、JXオーシャン本社（横浜市西区）にて行われました、当社社長 廣瀬隆史のグループ社員に向けた「年頭挨拶(要旨)」を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. はじめに

この冬休みは暦の並びも良く9連休となりましたが、休暇中は、特に大きな問題もなく、無事故で終えることができました。皆さんもゆっくり休養し、家族サービスなど有意義に過ごされたことと思います。

まずは、年末年始にも関わらず業務に精励いただいた、乗船中の海上従業員の皆さん、休みの間も各ターミナルに勤務された海務監督の皆さん、そして本社で勤務された皆さん、大変ご苦労様でした。あらためまして、皆さんの日ごろの努力に心より感謝申し上げます。

今年の干支は子（ねずみ）で、『十二支が一巡し新たな始まり』を意味する年になります。そんな2020年の年頭にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

2. 2019年を振り返り

昨年は、平成から令和と年号が改まりました。大きなスポーツイベントでは、ラグビーワールドカップが開催され、予想以上の盛り上がりを見せました。そこから生まれた「ワンチーム」という言葉は流行語大賞を取るほどに浸透したものです。

一方、近年ますます激甚化してきている災害が発生し、多くの被害が発生した年でもありました。

6月末から7月初めにかけて、九州各地における梅雨前線の影響に伴う集中豪雨、8月には九州北部を中心とした前線に伴う大雨災害、また、9月の台風15号に続き、10月の19号では、関東を含む東日本において被害が多く発生しました。

特に台風は関東を直撃し、家屋破損、河川の堤防決壊等による洪水および停電・断水等が起こったことで、皆さんも災害について認識を新たにする機会となったのではないのでしょうか。

被災者の方々にはここに改めて、お見舞い申し上げます。

私たちを取り巻く業界の動きに目を転じますと、原油船やLPG船での市況回復といった追い風もありますが、産油国での地政学リスク、国際的な保護主義の台頭、環境規制への対応、温暖化による予想外の災害等々、取り巻く環境は先行き不透明な厳しい状況が続いており、全く余談を許す状況にはないことをまざまざと感じた年でもありました。

そのような中、私は昨年4月に当社の社長に就任し、約9ヵ月を皆さんと共に過ごしてきました。日ごろから皆さんが鋭意努力を重ね、安全で効率よい船舶運航に努めてくださっていることには感謝の念を禁じえません。

しかしながら、この期間で見えてきた課題もまだまだ多いことも事実です。これらはひとつずつ着実に解決していくことは、より強い、社会から信頼される企業となるために必要不可欠なミッションでありますので、全社一丸となって取り組んでもらいたいと思います。

3. 皆さんへのお願い

一年の始まりにあたり、皆さんに以下の点を強くお願いしたいと思います。

第一に「安全とコンプライアンスはすべての事業活動に優先する」ということです。

これは改めて言うまでもありませんが、安全とコンプライアンス遵守なくして企業の存続はあり得ないからです。これらを効果的に進めるために内部統制やISMなどの仕組みは、とても有効です。皆さんも面倒だと思わずに理解を進め、積極的に取り組んでもらいたいと思います。

第二に、業務をやる以上は「楽しんで業務に向き合う」ことを心掛けてほしいと思います。

一日のうちで会社に拘束されている時間は、寝ている時間よりも長く、一日の大半を占めています。そうした場所である以上、嫌な場所ではなく、良い環境であるべきです。楽しく仕事ができればそこから生まれる成果もより良いものになると確信しています。

最後に「健康」です。仕事もプライベートも健康でなければ、それらを満喫することはできません。日ごろからご家族も含めて健康に留意し、さらに充実した1年を送られることを切に願います。

最後になりますが、迎えた2020年が、皆さん、そして皆さんのご家族にとって幸多き1年となりますよう祈念して、年頭の挨拶といたします。

以 上